

神戸市室内管弦楽団について

1. 経緯

(公財)神戸市民文化振興財団の「神戸市室内管弦楽団」の運営においては、2021年度より専門人材を配置して以降、本格的な運営の改善に着手し、制作や広報の強化、専門分野での評判形成、外部助成金の獲得、団員報酬の見直し、普及啓発・社会包摂事業の拡充などの改善に鋭意取り組んできた。一方で、来場者数の大幅な改善には至らず、他都市の楽団に比べて当楽団の自治体支援の割合が高いことや、演奏収入割合も低い現状にある。

さらに、2026年2月に策定された外郭団体改革方針において、(公財)神戸市民文化振興財団が重点の見直し対象団体への指定を受けたことから、市民還元や民間代替性の視点を踏まえて、市補助金の有効性・効率性の観点から当楽団に対する補助金の見直しを行う。

【外郭団体改革方針（2026年2月策定）より抜粋】

団体名	課題と方向性	
(公財)神戸市民文化振興財団	課題	安定した団体運営を継続するため、各種公演や講座等における事業収入の増加、新たな助成金・寄付金の獲得など、組織全体の企画力や経営力の強化による収益構造の改善に加え、市民還元や民間代替性の視点を踏まえた事業の見直しが必要である。
	方向性	収益構造の改善や事業の抜本的な見直しによる経営安定化

2. 神戸市室内管弦楽団について

項目	内容
変遷	1981年：「神戸室内合奏団」として設立 2018年：管楽器団員の加入を機に「神戸市室内管弦楽団」と改名 2021年：世界的なチェリストであり指揮者の鈴木秀美が音楽監督に就任
団員数	26名（2025年12月時点） <内訳> ヴァイオリン11名、ヴィオラ2名、チェロ2名、コントラバス1名、フルート2名、オーボエ1名、クラリネット1名、ファゴット1名、ホルン1名、トランペット2名、ティンパニ&打楽器2名
年間演奏回数	・定期演奏会 5回（神戸文化ホール 大ホール） ・セレクションシリーズ 2回（うはらホール、ピフレホールなど）
設置/運営	(公財)神戸市民文化振興財団
市補助金 (予算額)	2024年度：約89,000千円 2025年度：約87,000千円 2026年度：約85,000千円

3. 現状・課題

(1) 来場者数の停滞

- ・定期演奏会 1 公演あたりの来場者数が停滞している。

＜表 1：定期演奏会 1 公演あたりの平均来場者数推移＞

年 度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
人 数	497 人	566 人	563 人	566 人

(2) 収支・経営改善の見通しの厳しさ

- ・他都市の楽団に比べ、自治体支援の割合が高く、民間支援・演奏収入の割合が低い。
- ・将来的な収支構造の改善や集客増などの目途が立たず自律的な運営が困難。

＜表 2：事業活動収入の財源内訳＞

	神戸市室内管弦楽団	政令市オーケストラ平均
地方自治体補助金	69.7%	39.5%
民間支援	0.0%	9.0%
演奏収入	11.2%	43.3%
その他	19.1%	8.2%

参考：日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑 2024（2023 年度値）

4. 対応と今後の方向性

- ・本市としては、市補助金の有効性・効率性、及び財団の経営安定化の観点を踏まえ、2 年先の公演スケジュールの決定状況を考慮し、当該楽団への補助金の支出を 2027 年度までとする方針である。